

お元気ですか

2024年11月205号



発行所 (福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター
〒231-8482 横浜市中区桜木町1丁目1番地
横浜市健康福祉総合センター9階
☎045-681-1211(代表) ☎045-680-1550
🌐<https://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/>
編集発行人 内嶋 順一

横浜市 障害者支援センター

🔍 検索

「障害福祉入門研修報告」
「R6進路対策研究会調査報告」
「S-net研修会報告」



横浜あゆみ荘は40周年を迎えました!

障害者研修保養センター横浜あゆみ荘は、1984年11月に開館し今年で40周年を迎えました。
40年に渡るみなさまのご支援に深く感謝申し上げます。

所長からご挨拶

年に1回、宿泊に来られるご家族に今年も来ていただきました。今年もあゆみ荘に来てホッと過ごしていただけているとよいな、と思いました。他にも、障害団体や特別支援学校、地域訓練会など、多くの障害のある方やご家族にご利用いただきてきました。40年間引き継がれてきた、障害のある方やご家族にとっての保養や研修の場としての役割を、今後も職員とともに果たしていきたいと思います。



大浴室。リフト浴ができる
小浴室等もございます。



夕食の一例。
軟食、ミキサー食
メニューもございます。



和室には
スロープや
ベッドの用意も
可能です。



宿泊室の一例。
段差のない
洋室もございます。

他にもあります!
あゆみ荘の魅力。
詳しくはこちらから



開館当初からあゆみ荘をご利用いただいている 坂田信子さんにお話を伺いました



知的障害のある娘を育てる母として、仲間とあゆみ荘に泊まり夜遅くまで様々な相談をしあい、支え合ってきました。子どもが50代を迎えた今でもその時のメンバーは大切な仲間で、年に1回はあゆみ荘に集まっています。

あゆみ荘は、旅館の雰囲気味わえる一方で規模が大きすぎず、娘も混乱なく過ごせるところが気に入っています。また、子どもが壊しそうな置物などは予め片付けてくれるなど、障害特性に合わせた様々な配慮をしてくれます。

今後も、障害のある人が安心して楽しく過ごせる場として、更なる発展を期待しています。



(NPO)ダンボのみなさん。
いつもご利用ありがとうございます。



職員・関係者一同、
みなさまのお越しを
心より
お待ちしております。





ボランティアさん紹介

XX

いとぐるま(戸塚区)

小澤康男さん

「ボランティアの出発点は、とにかく楽しむ気持ち」と笑顔で語ってくださった小澤さんは、いとぐるままでボランティアを始めて今年で10年になります。長年お勤めになった会社を退職後、職員として数年働いた後に現在はボランティアとして活動されています。

会社員時代に福祉施設を訪問した経験はありましたが、障害のある方との関わりは初めてでした。会社の演劇部での経験を生かして、クリスマスにはサンタクロース役に変身するなど、みなさんを楽しませてこられました。当初は、初めて聞く言葉や疾患名も多かったのですが、知識や経験を積みながら少しずつ不安を自信へと変えていったそうです。現在は長年のお付き合いの中で、通所者や職員との信頼関係が築かれていて、取材の時も和気あいあいとした雰囲気が流れていました。行事や外出プログラムのボランティアとして関わる人が多いそうですが、お一人お一人の性格、

状態を把握されているので「安心してお願いすることができる」と管理者の泉さんは話されていました。

これまでを振り返って、小澤さんは「ボランティアの良さは、みんなで一つのこと、同じ時間を共有できるところ。ボランティアだからこそできた経験もたくさんある」とお話しされました。職員からボランティアへと立場が変わられても、小澤さんの楽しむ気持ち、いとぐるまに素敵な笑顔を届けています。



左から2人目が小澤さん



福祉バス「あおぞら」で 出かけよう

市内の障害当事者団体・施設などが外出・行楽に出かける時に利用できる、福祉バス「あおぞら」を運行しています。ご利用にあたっては、ご登録の上、ご利用希望日の3か月前の午前中までにお申し込みをいただいています。他の団体と希望日が重なった場合、抽選となります。利用料は、利用時間や距離によって決まるバス借上料のうちの1割となります。※別途実費負担あり(有料道路通行料・駐車場代など)

時期や曜日によってはまだまだ空きがあります。ぜひ皆さまのお出かけに福祉バスをご利用ください。



バスを利用された「ともだちの丘」の皆さまに感想をいただきました
7月に東京スカイツリーへ行ってきました

運転手さん、バスガイドさんが優しく声をかけてくれて安心しました。バスガイドさんのトークが面白く、楽しく過ごせました。

みんなで行けて楽しかったです。福祉バスなので、利用者に対する理解があり、丁寧な対応がとても助かります。



運行をお願いしている
宮浦観光バスより

皆様に安心して
楽しい時間をお
過ごしいただけ
るよう、よりよい
接客・接遇を心掛
けていきます



これからも障害のある人の生活を豊かにする大切な資源として、安心・安全・快適にご利用いただけるよう、取り組んでいきます。ご利用をお待ちしています。

福祉バス
利用受付
窓口

障害者支援センター
☎ 045-201-2049
FAX 045-306-9911



めばえ会 ～ 45周年～

活動内容

毎週火曜日10:00～13:20
障害者地域活動ホームあさひ
で活動しています。

1

10:00～11:00 朝の会

「手をつなごう」をみんなで歌い、運動や楽器演奏を楽しみます。



4



3



2

6

13:00～13:20 帰りの会

最後はみんな一緒に数字の歌や親子遊びをして、さよならの歌を歌います。



5

11:00～13:00

ボランティアさんと 子どもたちだけで過ごす時間。

天気の良い日は、外遊びをして、お弁当を食べます。
この間お母さんたちは、別の部屋で子育ての情報交換や相談をします。



親御さんたちのお部屋にお邪魔しました

訓練会の中だからこそ、子どもの成長について今まで気になっていたことも気にせず前向きな気持ちになれます。成長に期待がもてました。

ここで歌った曲を家で口ずさんだり、お友だちの名前を覚えていたりしています。たくさんの成長を見ることができました。

児童発達支援事業所などの知らなかったサービスについての体験談を、生の声で聴くことができます。



トイレに行く少しの間母親から離れず大泣きしたり、床に足をつくこともできなかった子がボランティアさんの協力のもと、2時間離れて活動できるようになりました。今では自分からボランティアさんの手を繋ぎにいきます。

めばえ会を支える方々に聞いてみました

ボランティアさん

多いときは20名

ほのおおさんが参加されていました。孫を見ている感覚で子どもたちはとてもかわいいです。お母さんは娘のようで、一生懸命な姿を見ると力になりたいと思います。遊びの中で子どもたちができないことができるようになるといいなと思って活動しています。

障害者地域活動ホーム あさひ職員 岡崎さん



めばえ会はお母さんと子どもたちが福祉の世界との関わりをもつ入口だと思います。不安を共有し、心配があっても笑顔で生きていけると思える場所ではないでしょうか。訓練会に参加していた子どもが高校生になって、活動ホームあさひに実習に来てくれたことがありました。めばえ会のボランティアさんと一緒に、その子の成長した姿を見ることができ、喜び合いました。

めばえ会OB 山本さん



我が子がめばえ会に参加していたころ、活動ホームあさひの創設にかかわっていました。昔に比べて発達支援の情報は増えましたが、母親が孤立しないためにも親同士のサポートが重要になると思います。

望遠鏡

令和6年7月3日、優生保護法が最高裁で違憲であると判決。強制的に不妊手術をさせられた25,000名と言われる多くの方達、関係者達が少しは報われた瞬間だったのではないのでしょうか。またこの裁判では、「個人の尊厳と人格の尊重を甚だしく反する」とし、国と国会に対して、障害者の尊厳、尊重を考えるようにと厳しく追及しています。国が全被害者に補償を速やかに行うと共に、社会的に弱い立場の方々にも、常日頃から寄り添う姿勢を取り続けることを願います。

横浜市脳性マヒ者協会 松島 雅樹